

# 三愛 view

発行所：三船病院相談室  
 創刊日：2003年8月15日  
 〒763-0073  
 香川県丸亀市柞原町366  
 Tel 0877-23-2341  
 Fax 0877-23-2344

## 修正型電気けいれん療法 (mECT) について

三船病院 医師 三船 義博

### 1) 電気けいれん療法(ECT)の歴史

電気けいれん療法 (Electroconvulsive Therapy: ECT) は 1930 年代に開発された有効性の確立した治療法で、電氣的刺激により脳にてんかん発作を誘発し、様々な精神症状を改善すると言われています。有効性が高いこと、効果が速く現れることが特徴です。統合失調症の症状はてんかんになると少なくなるという観察事実から ECT が開発されたようです。しかし 1950 年代に薬物療法が開発されたことや、懲罰的な不適切使用、メディアによるスティグマの形成などから ECT の使用は減少しておりました。以前は技術的な問題から不安や恐怖心、苦痛を与えてしまうという欠点がありましたが、最近では麻酔科医の管理の下、静脈麻酔を使用することで不安、恐怖を取り除き、筋弛緩薬を使用することで骨折や脱臼の危険性をなくし、記憶障害の起こりにくい短パルス波治療器という機械を用いるなど安全性の高まった修正型電気けいれん療法(modified ECT:mECT)が主流となり、再び脚光を浴びています。

当院では平成 26 年 9 月より月曜日午後と金曜日午前の週 2 回 mECT を行っております。平成 26 年 9 月から平成 28 年 4 月末までに 31 名の患者さんに計 343 回安全に施行できております。

### 2) mECT の適応について

統合失調症、うつ病、躁うつ病などの疾患が対象になりますが、適応となる状況を考慮する必要があります。自殺の危険性が高い状態、食事や内服を拒否している状態、意思疎通が困難な昏迷状態など緊急性を要する場合、副作用のため十分な薬物療法が行えない場合、薬物療法を行っても十分な効果が得られない場合などが主な適応になります。

### 3) 治療の手順

- ① 医師が患者さんと家族に治療の説明を行います。
- ② 事前に血液検査、脳波、頭部 CT、心電図などの検査を行い、安全に施行できるか判断します。
- ③ 午前の場合は 0 時から絶飲食、午後の場合は 8 時から絶飲食とします。
- ④ 麻酔科医が麻酔や全身管理を行います。
- ⑤ 治療前には薬物投与のため点滴ラインを留置し、治療に備えて血圧や心電図、呼吸の状態を監視するため、センサーを胸部や頭部に装着します。
- ⑥ 麻酔薬と筋弛緩薬が投与されます。完全に眠った後に、頭部におかれた電極から、電流が約 5 秒間程度流されます。
- ⑦ 治療終了後、麻酔科医が呼吸と循環の状態を確認し、意識が戻ったら病棟の自分の部屋へ戻り、休んでいただきます。治療回数は週に 2 回、合計 6~12 回程度行います。

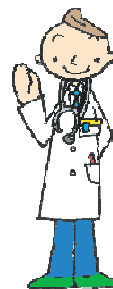
### 4) mECT の副作用

#### A. 通電直後に起こるもの

- ① 頻脈・血圧上昇: ほとんど全例に見られますが、3~5 分で消失します。
- ② 不整脈: まれですが、心電図を見ながら適切に対応します。

#### B. 麻酔から覚めた後に起こるもの

- ① 物忘れ: 最もよく見られますが、通常 4 週間程度で回復します。
- ② 頭痛・筋肉痛: 軽いものが多く、鎮痛薬などで改善します。
- ③ 興奮や混乱: 時々見られますが、通常 1 時間以内に改善します。



## 三船病院看護部の取り組み

三船病院 看護部長 片岡 睦子

当院の看護部門は、6 つの病棟と外来、訪問看護の機能を有しています。330 床(稼働病床)の病棟の機能は精神科急性期治療病棟、精神病棟、精神療養病棟、

認知症治療病棟、特殊疾患病棟と多様で、急性期から地域生活支援までの幅広い看護を実践しています。今回は、今年度看護部が重点を置いて取り組んでいるこ

とから2つを取り上げてお話をさせていただきます。

まず精神科急性期治療病棟における看護ですが、医師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士、薬剤師など多職種と連携し、入院から3カ月以内の早期退院を目標に援助を行っています。精神症状が悪化した急性期は、患者さんのみならず、不安や心配など精神的な苦悩を抱えているご家族の支援も重要となります。退院後、患者さんが再入院することなく地域での生活を送るためにもご家族の関わりは必須です。そのためご家族への視点を強化した看護を目指したいと考えています。

次に精神療養病棟における看護です。重度かつ慢性症状の患者さんは長期入院を余儀なくされております。当院の入院患者さんの平均年齢は約63歳と年々高くなっており、加齢に伴う身体機能低下を防止する援助が必要となっています。現在月に一度、外部の理学療法士の方を招き、リハビリテーションの方法をご指導いただいています。今後も作業療法士とともに、日常生活の自

立の維持を目指した身体的リハビリテーションを行っています。また食べることを楽しみにされている患者さんに、いつまでもおいしく食事を頂いてもらうため、口腔ケアおよび摂食・嚥下機能の維持を目指した援助も行っています。口腔ケアについては、ケアを重視して約2年が経過しようとしています。歯科医師や歯科衛生士の支援もあり、少しずつ成果が出ている状況です。歯が少ない人に認知症が多いことや転倒のリスクが高いことが研究で明らかにされており、今後も身体リハビリテーションや口腔ケアを強化していきたいと考えています。

最後になりますが、開院63年目となる三船病院の理念は「病院の愛・家族の愛・社会の愛に包まれた患者様の医療を目指します」です。時代の変化に合わせた必要な看護を実践することはもちろんのこと、時代が変わっても揺るがない病院の理念のもと、看護部一丸となって看護の歩みを進めていきたいと思っています。

## 三船病院医師からのメッセージ・・・



### 「 災害時に備えて 」

三船病院 医師 平田 仁美

みなさんは日頃から災害時に備えた準備をされているでしょうか？熊本地震では前震、本震と二度の大きな地震が発生し、倒れてきた家屋や家具の下敷きになって多くの人が亡くなったり、大けがをしたりしました。大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒防止対策をしましょう。また電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や非常食などを備蓄しておきましょう。

#### <食料・飲料・生活必需品などの備蓄の例>

- ・飲料水 3日分(1人1日3リットルが目安) ・非常食 3日分の食料(ご飯(アルファ米など)、ビスケット、板チョコ、乾パンなど) ・トイレトーパー、ティッシュペーパー・マッチ、ろうそく・カセットコンロ など
- ・非常用持ち出しバッグの準備はできているでしょうか？

自宅が被災したときは、安全な場所に避難し避難生活を送ることになります。非常時に持ち出すべきものをあらかじめリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

#### <非常用持ち出しバッグの内容の例>

- ・飲料水、食料品、貴重品、救急用品(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など)、マスク、軍手、懐中電灯、衣類、下着、タオル、携帯ラジオ、予備電池、携帯電話の充電器、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、洗面用具など
- ・ご家族同士の安否確認方法は決まっていますか？

別々の場所にいるときに災害が発生した場合でもお互いの安否を確認できるよう、日頃から安否確認の方法や集合場所などを、事前に話し合っておきましょう。災害時には、携帯電話の回線がつながりにくくなり、連絡がとれない場合もあります。その際には **災害用伝言ダイヤル** (局番なしの「171」)に電話をかけると伝言を録音でき、自分の電話番号を知っている家族などが、伝言を再生できます)や**災害用伝言板** (携帯電話やPHSからインターネットサービスを使用して文字情報を登録し、自分の電話番号を知っている家族などが、情報を閲覧できます)を利用しましょう。

- ・避難場所や避難経路、確認していますか？

いざ災害が起きた時にあわてずに避難するためにも、お住まいの自治体のホームページなどから防災マップやハザードマップ(災害予測図)を入手し、避難場所、避難経路を事前に確認しておきましょう。

日本各地で起こっている災害がいつどこで生じるかわかりません。日頃から災害時に備えて準備しておくといいですね。

# 三愛会 トピックス

## ★三船病院家族会

5月15日に三船病院家族会を開催しました。今年のゲストは「アンサンブル・ムジカ」の皆様で、華やかな歌声が会館中に響き渡りました。恒例のバザーも皆様からの好評をいただき、笑顔あふれる1日となりました。演芸会の後は第32回の家族教室を開催し、当院の野口医師より「精神科の病気とお薬について」講演がありました。治療時期ごとの家族の対応など具体的な話も多く、理解を深めるよい機会となりました。



## ★第37回相談室セミナー

3月3日に第37回相談室セミナーを開催しました。「健康的な食生活」というテーマで当院の岡浩実管理栄養士よりお話がありました。飲料に含まれる砂糖の量をスティックシュガーに換算したり、食事に関するクイズをしたりと、最後まで楽しい勉強会となりました。日頃の食生活を振り返ることができ、健康な体を維持するために食事のバランスに気をつけたいとの感想が多くありました。



## 三船病院 委員会活動紹介

### 個人情報保護委員会

副委員長 事務長 北村 直幹

【個人情報】というワードで皆さんは何を連想しますか。名前？住所？携帯電話番号？色々思い浮かぶものはあると思いますが、【個人情報】とは、特定の個人を識別することができる情報を指します。例えば名前。名前だけで特定の個人と識別できるのは余程の珍名等の場合を除き断定できません。同姓同名、同じ漢字でも読み方の違いなど別人である可能性もあるからです。ただし、これにいくつかの情報(例えば住所や勤務先等)が合わさった場合、かなりの確率で特定の個人と断定できてしまいます。病院の中の個人情報と言えば迷わずカルテ

情報が思い浮かびますが、これは個人情報の中でも特に厳格で適切な取り扱いの確保が必要な分野に指定されています。仮にカルテ内に遺伝に係る情報が書かれていた場合、それは生涯変わらない本人の情報ということのみならず、血縁者に関わる場合も考えられるため、厳重な管理が必要となります。個人情報保護委員会では、そういった情報の取扱いについて多職種で協議し、漏えい事故等が発生しないよう今後も活動を続けていきたいと考えています。

#### 《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリニックパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第2金曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)



## 【介護老人保健施設 福寿荘】

### 「楽しみなおやつ作り」

介護福祉士 下山 美樹

今回は福寿荘で行っているクラブ活動の一つであるおやつ作りについて紹介します。

おやつ作りは月に一度、10名前後の利用者の方が参加して下さり、午後に一時間程食堂にて行っています。おやつ作りを始めたきっかけは、利用者の方がテレビでスイーツの番組を見て「美味しそう！」と楽しそうに話されているのを聞き、施設でも楽しい時間を過ごしていただくために何か出来ないか職員で考えたのがきっかけでした。利用者の方にもっと話を聞いてみたところ、「甘いものが好き」「昔はよく子どもにおやつを作っていた」などの意見がありました。

これまで施設では利用者の方が自分で料理したり、何かを作ったりする機会はほとんどありませんでした。このため、おやつ作りは料理が好きな方や食べることが好きな方にとって良い時間になるのでは、と考えました。メニューは何を作りたいか、何を食べてみたいかを利用者の方に聞いたり、管理栄養士と相談したりして毎月決めています。これまで、人気の餡を使ったあんみつやおはぎ、季節を感じていただくためのかき氷やスイートポテト、家庭の雰囲気味わえるホットプレートやたこ焼き器を使ったおやつなど、様々なものを利用者の方と一緒に作りました。作業中はみなさま楽しそうに話をしたり、お互いに協力したり、時には真剣な表情で作ったりされています。私たち職員にとってもおやつ作りは利用者の方の様々な表情を見ることができると嬉しい時間となっています。

今回紹介したおやつ作りを含めた様々な活動が、利用者の方々の気分転換や栄養・水分補給、そして何より生活の中での楽しみの一つになって欲しいと思っています。これからも利用者の方々に寄り添い、幸せを感じてもらえるよう職員一同頑張りたいと思っています。



## 【三愛会コミュニティセンター】

### 「宿泊レクリエーションを実施して」

三愛会共同生活援助事業所 精神保健福祉士 藤井 志帆

三愛会共同生活援助事業所では、平成28年3月5日～3月6日の1泊2日で、宿泊レクリエーションを実施しました。今回の宿泊レクリエーションを行うにあたって、約1年前からアンケートを実施しました。その結果、行き先は希望が多かった広島県に決定しました。参加希望者を募り、利用者職員とでミーティングを重ね、関係機関とも連携しながら旅行の準備を進めました。

今回は、利用者10名に職員3名が同行しました。旅行1日目は、宮島へ行きグループに分かれて厳島神社などの観光や食べ歩きを行い、夜はビジネスホテルに宿泊しました。旅行2日目は、平和記念公園と原爆資料館に行き、昼食はお好み村で広島名物のお好み焼きを食べました。移動手段は新幹線等の公共交通機関を利用しました。

宿泊レクリエーション終了後、利用者からは「みんな1つになって楽しくできた」「生まれて初めて新幹線に乗った」「天候にも恵まれ、一生の思い出になった」などの感想がありました。普段、日中活動に取り組む利用者にとっては、良いリフレッシュとなり、それぞれが親睦を深める良い機会になったのではないかと思います。同行した職員も、観光先で荷物を忘れるなど小さなトラブルはありましたが、怪我や事故なく帰ることができて良かったと感じています。

地域で生活されている精神障害者の方の中には、長期間入院していたことや病状に波があることで、様々な体験ができなかったり諦めてしまったりする方もいらっしゃると思います。当事業所では、普段の関わりだけでなく今回の宿泊レクリエーションのような様々な体験を通して利用者のニーズが広がり、より良い地域生活を目指していければと思います。



### 《三船病院からのお知らせ》

#### 【行事予定】

○三船病院夏祭り

今年も8/6(土)に開催を予定しております。多くの方のご参加をお待ちしております。



### 《編集後記》

初夏のさわやかな風がなんとも嬉しい季節となりましたが皆さまいかがお過ごしでしょうか。5月に開催いたしました家族会では、多くの方にご参加いただき、入院中の皆様にとっても思い出深い1日となったことと思います。三船病院では、これからも地域の皆様との交流を大切に、地域に根ざした医療機関として有り続けられるよう努力して参りたいと思っています。(三船病院相談室PSW)